

## 単元名 7 価値を語る ―君は「最後の晩餐」を知っているか

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 筆者がどのような例示(具体)を基に、「最後の晩餐」を「カッコいい。」(抽象)と述べているのかを理解することができる。  
二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理することができる。  
(2) 二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えることができる。  
文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表することができる。  
(3) 粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとする。

## 標準的な展開例

11210219\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 文章を読み、感じたことや考えたことをまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」(p.170)を読み、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★本文を読んで感想をもち、発表しよう。</li> <li>○図版(p.171, p.172)を見て、気づいたことや感想を発表する。</li> <li>○題名「君は『最後の晩餐』を知っているか」から、筆者が何を論じているか予想する。</li> <li>○文章を通読し、あらすじをつかむ。</li> <li>○観点を基に、書かれている事柄と順序について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・何について、どのような順序で書かれているか</li> <li>・興味をもったこと</li> <li>・気になった言葉やキーワードと考えられる言葉</li> <li>・表現上の工夫</li> </ul> </li> <li>○文章の内容や構成について知る。</li> <li>○感想を書き、交流する。</li> </ul> <p>2 文章全体の構成をつかみ、「解剖学」「遠近法」「明暗法」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文章全体の構成をつかみ、「解剖学」「遠近法」「明暗法」を理解しよう。</li> <li>○全体の構成をつかむ。</li> <li>○各まとめごとに小見出しを考え、発表する。</li> <li>○「解剖学」「遠近法」「明暗法」について、文章と図版から理解する。</li> <li>○「『最後の晩餐』を『カッコいい。』と思わせる一つの要因」であることを捉える。</li> </ul> <p>3 筆者が「最後の晩餐」を「カッコいい。」と思った根拠を明らかにし、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「最後の晩餐」を「カッコいい。」と思った理由について考えよう。</li> <li>○第16段落「これが『最後の晩餐』を『カッコいい。』と思</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描いてあること(事実)、絵から感じたり考えたこと(意見)に分けて付箋に書き、図版に貼り付ける。</li> <li>・付箋をもとに、知っていたことや感じたこと疑問に思ったところなどを発表させる。</li> <li>・学習の窓(p.182)を読んで、「評論」の特色と学習の方向性について触れておく。</li> <li>・漢字の読みや意味のつかみにくい語句、欄外の語句などについて確認させる。</li> <li>・観点ごとにノートにまとめさせる。</li> <li>・序論、本論、結論の三つの構成になっていることを確認する。</li> <li>・友達の発表を聞いて、印象に残ったものや参考になったものを書くようにさせる。</li> <li>【評】感想や自分の意見を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・前時に分けたまとまりを確認する。</li> <li>・ノートや学習プリントを使って、全体の構成と小見出しを書き込ませる。</li> <li>・グループで発表させたり、全体で発表させたりしながら意見を交流させることで相互評価させたい。</li> <li>【評】内容に即した小見出しを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・「レオナルドの絵は、それまでの絵画とは違う、全く新しいものだった」(p.170)に着目させ、具体的な根拠となっている「解剖学」「遠近法」「明暗法」を導き出す。</li> <li>・文中の言葉を効果的に使って、それぞれについてノートや学習プリントにまとめさせる。</li> <li>【評】「解剖学」「遠近法」「明暗法」をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・「解剖学」「遠近法」「明暗法」が「絵画の科学」であり、誰も描かなかった新しい絵を生み出したことを確認する。</li> <li>・「解剖学」「遠近法」「明暗法」についてまとめたことを、もう一度確認する。</li> <li>・「カッコいい。」の根拠が、「絵画の理論」</li> </ul>

<p>わせる一つの要因だろう」(p. 178)から「絵画の科学」として挙げてある3点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第17段落(p. 178)からの「絵の修復」について筆者はどのように考えているのか、考える。</li> <li>○第19段落「だから、いきなり『かっこいい』と思えるのだ」(p. 179)についてグループで話し合う。</li> <li>○筆者の述べる「本当の魅力」について考える。</li> <li>○筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい」と思った理由を「かっこいい」「見えなかった」「全体」というキーワードを使ってまとめる。</li> <li>○本時の学習のまとめをする。</li> </ul> <p>4 筆者のものの見方や考え方について、考えたことをまとめ、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の絵画の見方や感じ方について、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <p>○グループで自分の考えを述べ合い、交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較によって初めて気付いたことや理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果友達に報告する。</li> <li>・二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ、自分が好きな作品について論じる。</li> </ul>	<p>だけでないことに気付かせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は修復後の絵を見たとき、「物の輪郭が作る形。その連なり。」や「絵の構図がもっている画家の意図。」から「絵画の科学を駆使して表現しようとしたもの」が見えてくると気付いたことを確認する。</li> <li>・「結論」の文章をもう一度確認させ、筆者の考え方を整理させる。</li> <li>・どのような「修復」が行われ、どのような状態になったのか、文章を基に発表させ、意見を交流させる。</li> <li>・「ところが」(p. 161)に着目させ、現在の「最後の晚餐」を筆者がどのように見ているのかに気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】文中のキーワードを用いてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめた文章を何人かに発表させ、全体で交流する。</li> <li>・「学習の窓」(p. 182)を示し、この文章が評論であることを確認し、筆者の文章の魅力について考えることを伝える。</li> <li>・必要に応じて、意見をもつための観点を与えるとよい。(違う解釈、同じ解釈、納得する点、納得できない点、自分の知識との比較など)</li> </ul> <p>【評】筆者の考えに対する自分の意見をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見を聞いて、疑問を発したり、別の考え方を示したりして、活発な交流ができるようにしたい。</li> </ul> <p>【評】自分の考えを述べて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに絵を見たり文章を読んだりして感じたことを振り返り、どのように考えが深まり広がったのかを確かめさせてもよい。</li> </ul>
--	--

【 備 考 】  
 社会生活で求められる表現は多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠に注目して論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。  
 また、論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える根拠としての具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは必要である。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。